

〔事業所概要(事業所記入)〕

事業所番号	1270902818		
法人名	株式会社エンジョイ		
事業所名	エンジョイ松が丘そよ風 さざんかユニット		
所在地	千葉県船橋市松が丘5-32-1		
自己評価作成日	平成21年11月1日	評価結果市町村受理日	平成22年1月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo.pref.chiba.lg.jp/
----------	---

〔評価機関概要(評価機関記入)〕

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4 千葉県労働者福祉センター5階		
訪問調査日	平成21年11月19日		

〔事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)〕

入居者の個性を理解する事に努め、入居者の方々が毎日笑顔で生活できる様支援するという理念をかかげ実践に向けて日々取り組んでいます。また、入居者主体の生活を意識し、出来る事は時間がかったとしても、できる限り御自分でやって頂くようにしている。集団での生活ではあるが、個別ケアを実践し、一人ひとりに合わせた生活スタイルが確立できるよう努めている。

〔外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)〕

期毎にスローガンを掲げ、全職員でサービス目標の達成に向け取り組んでいる。最新の第8期スローガンは「信頼の絆」である。入居者は穏やかで明るく、昼食の準備や食後の食器洗いなど、職員と一緒に会話をしながら、和気あいあいと行っている。ホームの居心地は良く、外泊で家に戻った入居者が、ホームに帰りたいと言って、泊まらずに戻ってきたこともあるほどだ。入居者の笑顔は、職員が思いを汲み取り、一人ひとりに合ったケアの実践からくるものと思われる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価(さざんかユニット)・外部評価結果(全ユニット)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議等を通じてスタッフ間でコミュニケーションを図り、話し合いの場を設け、事業所としての理念を作り上げ、それを掲示している。各ユニット毎に理念を掲げ、スタッフ間で共有し取り組んでいる。	法人の理念を玄関に掲げているほか、各ユニット毎の理念もフロアに掲示している。また、「信頼の絆」と言うスローガンを掲げケア目標の達成に向け取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域や町会のお祭り、清掃作業や講習会等には、入居者の方にも積極的に参加していただき、交流を深めている。	町内会の夏祭りや、年3回行われる地域の清掃作業に入居者と職員は一緒に参加している。また、町内会主催のAED講習会にデイサービスを会場として提供し、地域住民と職員と一緒に受講した。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の概要などは、運営推進会議等で説明しているが、地域住民全体に向けての取り組みには至っていない。通所サービス提供時間外などには、町会行事等で場所の提供を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議や家族会などにおき、意見や問題点等について話し合い、改善に努めている。また、介護計画の説明時などに、都度意見を訊いている。	運営推進会議は1年に3～4回開催している。参加者は家族代表、地域包括支援センター所長、職員で行っている。ホームの状況報告が主な内容となっている。	ホームからの発信のみにとどまらず、サービスの向上や地域連携のため、テーマを決めて意見交換するとさらによいと思われる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	グループホーム連絡会や運営推進会議の時に、情報交換やサービスの質の向上の為に意見をいただいている。	2～3か月に一度開催している船橋市主催のグループホーム連絡会に参加し、情報交換を行っている。市町村の職員とは介護保険サービスについて相談することもある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ケース会議等で話し合いの場を設けてスタッフ間で理解を深めている。生命保護の為に身体拘束が必要な際には、御家族様に状況を説明し同意を得ている。	身体拘束をしないケアに取り組んでいる。しかしながら玄関は常に施錠している。入居者が出たいときにはその都度職員が付き添い対応している。	玄関施錠は家族からの要望とのことだが、施錠しないケアが可能なら、なるべく解放することが望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	必要に応じて研修等にも参加し、知識の向上に努めている。また、御家族様、スタッフ共にコミュニケーションを密に図り、情報の共有化にも努めている。		

エンジョイ松が丘そよ風 自己評価(さざんかユニット) ・ 外部評価(全ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修への参加で知識の向上を図り、現在対象と思われる方への支援を実施中である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者様や御家族様と十分に話し合いの場を設け、了承を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様の意見、不満に対して傾聴し、ケース会議等でも話し合いの場を設けている。	運営推進会議後に家族会を開き、要望を聴く場を設けている。家族から職員に名札の着用の要望があり、アイロンで張り付ける方法に決まった。また、フロアに職員の顔写真を貼って、家族に分かるようにした。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や個人面談等を通して、意見を述べる場を設け、それらが運営に反映しているものと思われる。	月に1回のケース会議や年1回の管理者との面談で、意見や要望を言う機会がある。出された意見は職員間で話し合い、サービスに繋げるなどしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員それぞれが、働きやすい環境になるよう意見を求め条件整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外問わず、希望の研修には参加するよう働きかけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会などの勉強会参加や、内部勉強会などで他ホームの職員と話す機会があり、意見交換などを行いサービスの向上に生かしている。		

エンジョイ松が丘そよ風 自己評価(さざんかユニット) ・ 外部評価(全ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	可能な限り、御本人から聞き出せるように努めている。また、困難な場合は御家族様から御本人の状態や生活歴などを伺い、御本人の思いなどを受け止めるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時から話し合いの場を多く持つようにし、御家族の困っている事や希望などを聞きだしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容や御本人、御家族の状況に合わせ、他サービスの内容なども考慮した上で対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者と共に作業や余暇時間を過ごすことにより、共に支えあえる関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	些細な変化も御家族様にお伝えし、様々な事を共有できるように努めている。又、ケアプラン説明時等を利用し、御本人様のQOL向上に向けて御家族様と話し合っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの知人との交流や、御家族様の支援による外出や墓参り等、これまでの生活習慣を継続していけるよう努めている。	入居者のなかには友人と年賀状のやりとりをしている人もいる。ディサービスに来ている入居者の知人が訪ねてきたり、行きつけの美容室へ行くなど、馴染みの関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別ケアにより、個々のニーズを把握し、それぞれが安心して生活出来る場面作りをしている。また、利用者同士の関わりが困難な場合には職員が介入する事で支えあっているよう支援している。		

エンジョイ松が丘そよ風 自己評価(さざんかユニット) ・ 外部評価(全ユニット)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	御家族様には、解約手続きの際に、相談等がある場合には連絡を下さるよう声をかけている。また、気軽に事業所の方へ立ち寄っていただけるようにも声掛けしている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人やご家族と積極的にコミュニケーションをとり、日々の会話や表情、行動等から、その人の思いや意向を汲み取るように努めている。また、センター方式のシートを利用し、その意向をより明確化し、ケアプランの作成につなげている。	外に出たい、買い物に行きたい、家にあるものを取りに帰りたい、などの入居者の思いを、日々寄り添うことで、職員は把握に努めている。思いや意向は連絡ノートで共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、センター方式のシートをご家族様に記入して頂いている。入居後も本人の会話や、ご家族面会時などを利用し、把握に努めている。必要時は前任のケアマネやソーシャルワーカーに連絡をとり、情報の提供を求めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1ヶ月毎にモニタリングを実施。1ヶ月毎の過ごし方、変化の総括の記録、ADLのチェックを実施している。又、3ヶ月毎のケアプラン見直し時にアセスメントを行い、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者との関わりや、御家族様の面会時に考えや意見を聞き、介護計画に反映させている。又、往診や受診時を利用し、主治医の意見を確認している。ケース会議を月に1回開催し、職員の意見交換を行っている。	3ヶ月に1度の介護計画の見直し時には全職員で評価を行っている。その後、入居者、家族、職員の意見を反映させた新たな介護計画を、作成担当者が作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護記録を詳細に記録し、出勤時は目を通すようにしている。又、連絡ノートを作成し、より細かい情報を共有できるように努めている。それらを介護支援経過にまとめ、介護計画の見直しに活かせるようにつとめている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院や、その他の送迎等の実施、又、ADLの低下時の入浴の充実の為の機械浴の利用、デイサービスでの行事の参加等、その時の要望に応じ柔軟に対応出来るよう努めている。		

エンジョイ松が丘そよ風 自己評価(さざんかユニット) ・ 外部評価(全ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの方にあつたボランティアの接点を持てるよう努めている。また、図書館の利用等、ご本人が地域の中で生活を楽しんで頂けるよう、努力している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、御家族様の希望により主治医変更の対応も行っている。全てにおいて納得された上で、その方に適した医療が受けられるよう支援している。	従来からのかかりつけ医のほか、家族納得のもとホームの協力医に変更した人、個人契約で別の専門医の往診を受けている入居者など、様々である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	デイサービスの看護師と気軽に相談できる関係を築き、適切なアドバイスをうけている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、御家族様の承諾を頂いた上で病院と情報を共有し、御本人様のホームでの様子や身体的情報を医療機関に提供している。また、御家族様とも情報交換を行い、回復状況を把握し早期に退院が可能か否か見極めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	運営推進会議などで、事業所としての方針を説明している。また、ケアプラン説明時等に個人の方向性などの話し合いを行っている。	運営推進会議では、入居者の日常生活での状態が変化した時、どのような対応をするかについて話し合っている。重度化の対応については今後の課題である。	ホームとして重度化や終末期の方針を検討し、職員との意識あわせを行うとともに、家族とも話し合い、関係者との連携体制をつくることが期待される。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時におけるマニュアルを作成している。ケース会議で応急手当等の勉強会を行っているものの、スタッフの入れ替えなどにより全職員が把握できていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を定期的に行っており、地域には運営推進会議等で協力をよびかけている。	消防訓練は年2回行っている。夜間対応訓練も実施した。緊急避難場所は駐車場に定めている。災害で避難させた時、入居者が不明にならないよう衣服に『連絡シール』の貼付を検討している。	災害対策は重要なので、パートを含む全職員への周知を図り、会議の際に徹底し、いざとなった時、速やかに行動できる様、日ごろから意識しておくことが望まれる。

エンジョイ松が丘そよ風 自己評価(さざんかユニット) ・ 外部評価(全ユニット)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様に対しての言葉遣いや声掛けには、御本人様のプライバシーを損ねないよう配慮している。また、個人情報の取り扱いについても充分配慮し、慎重に対応している。	プライベートなことは入居者の耳で伝えるなど、他人に聞こえない配慮をしている。また、原則として同性介護としている。個人名が記載された用紙はシュレッダーでの廃棄を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様に合わせた声掛けを行い、意思疎通が困難な方については表情の変化を汲み取ったり、選択肢の幅が広がるような声掛けをおこなっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の関わりの中から、その時々入居者様の気持ちを汲み、配慮しながら対応するよう努めている。御本人様の生活歴や習慣を把握し、できるだけ入所前に近い環境で生活が出来るよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自立度が高い方には近所の美容室を、それ以外の方にも訪問理容を利用して頂く等、出来るだけ本人主体で身だしなみを整えて頂いている。化粧品等、御本人様がこだわっている商品を提供して頂けるよう、距離が離れた店まで買い物にでかけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛り付け、配膳、後片付け等は入居者様と共に、同じテーブルで職員も食事をし、家庭的な雰囲気の中で食事ができるよう心掛けている。又、畑で野菜を育てていただき、それを召し上がって頂くことで食の楽しみや季節感を味わっていただいている。	刻み食など、入居者個々に合わせて支援している。依頼している食材業者にメニューについて要望を出し、入居者の好みを反映させている。また、出前を取ることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量については毎食毎に記録に残し把握している。また、個々の状態に合わせて食事の提供が出来るよう、必要に応じ栄養士などに相談している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者個々の状態に応じ、声掛けや支援を行っている。また、必要に応じ訪問歯科を利用している。		

エンジョイ松が丘そよ風 自己評価(さざんかユニット) ・ 外部評価(全ユニット)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用することで排泄パターンを把握し、トイレの声掛けや誘導を行っている。又、排泄表に合わせたパット等を使用し、不快感を軽減できるよう支援している。	定時の声掛けで誘導している。夜間、ポータブルトイレを居室に備えて失禁の減少に繋がった例もある。入居者一人ひとりの様子は必要に応じてケース会議で話し合い、自立の維持を心がけて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘防止の為、乳製品の摂取を促している。又、体操や散歩、レクリエーション等で適度な運動ができるように工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	2日に1回の入浴が基本となっているが、一人ひとりの状態に合わせて、臨機応変に対応している。	毎日の入浴を希望する入居者には出来る限り、希望に沿って支援している。入浴を拒否する人には、気持ちに合わせて、本人本位に支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、生活のリズムが整うよう努めている。又、利用者個々の生活習慣やペースに合わせ、睡眠や休息がとれるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者毎に内服薬の内容書をファイルし確認できるようにしている。又、内服変更時には申し送りノートに記入し、全職員が把握できるように努めている。症状の変化等は必ず記録に残し、状態把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や日々の生活の中で、得意な事などを把握し、可能な限り持っている力を発揮していただけるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事などで普段行けない所などへ行ける様な機会を設けている。個人については希望があった際は、可能な限り個別に対応している。対応困難なときはご家族様に依頼をするなど対応している。	家族の協力も得て墓参りや、家への外泊及び散歩など、日常の外出が行われている。また、年3回程度イベントがあり、今年は花見や夏祭り等を、多数の家族の参加を得て実施した。	

エンジョイ松が丘そよ風 自己評価(さざんかユニット) ・ 外部評価(全ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の能力に合わせ、可能な方にはお金を管理していただいている。又、自己管理が困難な方でも買い物の際には、できるだけ御自分で支払いをしていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話の希望がある際には支援できるよう配慮している。又、携帯電話を所持されている方もおられ、外部とも積極的に連絡が取れるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア内の照明や光、音などは職員が判断し調整を行っている。季節感のある装飾品や、行事の写真を掲示する等皆様に楽しんでいただけるよう工夫している。	訪問調査当日は雨湿じりの寒い日であったが、ホーム内部は柔らかみのあるカーテンに囲まれて、春のような暖かさが保たれていた。またラジカセからの音楽とともに、入居者の満足げな声が聞かれた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを設置し、気の合う利用者同士で過ごせる環境を作っている。又、玄関にもソファを置くことで一人になれるような場所を設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前の事前調査時に、在宅での居室内の配置や馴染みのもの等も把握し、御本人にとって安心して居心地良く過ごせるよう配慮している。	居室は自分のものであるという意識で、持ち込みが自由に行われている。火災予防のため、仏壇のロウロクは、電気のものにしてもらっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア、浴室、トイレ等には手摺を設置し安全に生活できる様に配慮している。また、居室の表札やトイレの標記など状況に合わせ、わかり易く標記している。		